

ニュースレター No.100 December 2023

みっく
MIC かながわ

とくていひ えいりかつどうほうしん
特定非営利活動法人
たげんごしゃかい
多言語社会リソースかながわ

〒221-0835
よこはましかながわくつるやちよう
横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2
かながわ県民センター内
Tel: 045-314-3368
Fax: 045-342-7918
e-mail: mickanagawa@network.email.ne.jp
URL: http://mickanagawa.web.fc2.com/

MIC かながわはニュースレターを半期に一度、6月末と12月末にホームページに掲載しています。

特集：MIC かながわ ニュースレター 第100号

MIC かながわの設立から20年が過ぎ、2002年7月に第1号を発行してから、今回お届けするのが第100号となりました。

今ではMIC かながわのホームページ上でどなたにもカラーでニュースレターを見ていただけるようになりました。今回は、第100号に至るまでさまざまなコーナーでお手伝いをさせていただいたニュースレターボランティアの方たちと編集担当者からのそれぞれの思い、思い出を皆さんとシェアしたいと思います。

ねんど ぐうすう 年度/号数	はっこうかいすう 発行回数	そうふさき 送付先	ない よう 内 容
2002～2003 No. 1～21	まいつきはっこう 毎月発行	かいいん 会員 かんけいさき 関係先	MIC の活動報告/イベント情報/派遣実績 等
2004～2007 No. 22～45	ねん かいはっこう 年6回発行	かいいん 会員 かんけいさき 関係先	MIC の活動報告/イベント情報/MIC's company (MIC にかかわっているさまざまな人へのインタビュー) / 覚えておきたい診療科別医療用語/医療通訳に関するQ&A/派遣実績 等
2008～2015 No. 46～77	ねん かいはっこう 年4回発行	かいいん 会員 かんけいさき 関係先	MIC の活動報告/イベント情報/MIC's company/役員・会員・医療通訳スタッフからの寄稿/MIC カフェテラス(通訳さんたちへのお役立ち情報) / 覚えておきたい診療科別医療用語/派遣実績 等
2016～2019 No. 78～92	ねん かいはっこう 年4回発行	ホームページ じよう こうかい 上で公開	MIC の活動報告/イベント情報/会員・医療通訳スタッフからの寄稿/MIC ちゃん 等
2020～ No. 93～	ねん かいはっこう 年2回発行	〃	MIC の活動報告/イベント情報/会員・医療通訳スタッフからの寄稿/MIC ちゃん 等

< MIC's company インタビュー 2004~2010 >

協定医療機関のMSW、国際課担当者、医療通訳スタッフ、コーディネーター、MIC かながわ理事、事務局スタッフ等に話を聞くため、古山さんとふたりでインタビューに出向きました。(内藤)

古山季玲さん (中国語医療通訳スタッフ、コーディネーター)

ニュースレター第100号、おめでとうございます。

私がニュースレターに関わったのは2004年からです。内藤さんに誘われて、深く考えず、単に面白いことが始まるという感じで引き受けました。それからいろいろな人に会い、いろいろな角度からMICを見ることができ、手伝いは2004年5月号から約5年間続きました。

私の心に残っている人…たぶん今のみなさんには分からないでしょう…その中でひとり忘れられない人がいます。今は亡きMさんです。Mさんはご自身が病気になってから、病院(通訳スタッフとして)からブース(コーディネーターとして)へと活動の場所を変えました。私は縁あって一緒にブースに入る機会がありました。普段口数の少ないMさんですが、いつも淡々とブースの業務をこなして一日の仕事を終える……。MICという団体が成り立ってきたのはそういう方たちの支えが根底にあったのだと思います。

時代が変わって、100号を発行しようとする現在、通訳スタッフもだいぶ変わりました。まだMICで頑張っている人たち、すでに去った人たち、中国語のGさん、スペイン語のNさんとKさん、英語のOさん、ベトナム語のMさん、ポルトガル語のEさんなどなど、数えきれない人たちが私の心に残っていて、ひとつの思い出になっています。

あの頃、病院で医療通訳担当として関わる方はほとんどがMSW(※)でしたが、今では多くの病院で事務の人が対応するようになってきました。医療事情も昔とだいぶ違って、ポケットクで済む場合もあります。ニュースレター200号のことは考えられませんが、これからも新しい嬉しいニュースが掲載されることを祈ります。

※医療ソーシャルワーカー

< 派遣実績作表 >

ニュースレターをホームページで公開するよりかなり前は、会員と関係者など限定して郵送でお届けしていました。久次さんには、どこの病院から何語の依頼を何件受けていたという情報を作表するボランティアをお願いしていました。パソコンで簡単に表の作成、計算ができるようになった現在と比べると、なんとずいぶんアナログな…という時代でした。(内藤)

久次奈美さん (元英語医療通訳スタッフ)

2009年から昨年までの13年間英語通訳として活動させていただきました。活動を始めた頃は子どもが小1と小4で、通訳に行けるのはふたりが学校に行っている時間帯のみでした。一度も日本で生活したことのなかった子どもたちは、日本での生活になかなか慣れず、学校までの送り迎えを始め、どこに行くにも付き添いが必要で、申し訳ないほど限られた日数しか通訳活動ができませんでした。子どもだけでなく10年ぶりの日本での生活に馴染めなかった私にとって、研修で出会う通訳の皆さんや病院で出会う患者さんたちとの時間はとても居心地よく、本当はもっと活動したいという思いとできない現実とで、悶々とした日々を過ごしていました。

そんな時、通訳派遣実績を作成する『広報ボランティア』の募集を知りました。入力作業であれば在宅でできますし、何よりMICの活動に貢献したいという欲求を満たせる！とすぐに応募を決めました。学校が休みだったのか下校後だったのか、事務局に子連れで現れた私に内藤さんが「子育ての経験は無駄にならないですよ。私もPTA活動の経験を買われてこの仕事に採用されたのよ」と言ってくださったことは、今でも忘れられない言葉です。その後も子育てのために仕事が十分にできない！と思ってしまうような時に、こども優先という軸をぶらさずやってこられたのは、この言葉のお蔭といっても過言ではありません。そして内藤さんの言葉通り、子育てで出会った友人や役員経験などが今の私の生活と仕事の幅を広げてくれています。この場を借りて心からお礼を申し上げます。

広報ボランティアを始めてみると、まず、数字を入力する作業は子育てと家事と少しの通訳とに追われている私にとって、無になれる時間となり、かなりのストレス解消になるという発見がありました。また協定医療機関ごとの言語別派遣実績を知ること、病院での通訳活動だけでは見ることのできない、通訳派遣の全体像に触れられることも大きな喜びになりました。研修で会う他言語の通訳の方が実績数字と重なり身近に思え、病院での通訳時も実績のうちの「1件」なのだという実感があり、独りよがりにならずにMICの一員として活動している責任感を持つことができました。そして毎月のニュースレターに私が入力した実績が掲載されることは私の貢献欲を大いに満たしてくれました。

広報ボランティアは2014年に終了となりましたが、活動実績をデータとして把握し、公開していくことが活動のモチベーションや社会への啓発活動になること、事務局の支えがあってこそ通訳活動が成り立っていることを体感できたとても貴重な経験でした。現在は賛助会員としてMICの活動を応援することしかできていませんが、またいつか活動に参加できる日が来ることを夢見しています。そして今後もニュースレターが継続すること、MICかながわが益々発展することを心からお祈りしております。

<現任者研修まとめ・感想>

事務局スタッフは研修当日はさまざまな役割があるため、研修での講師の話や会場の雰囲気、何より医療通訳スタッフ当事者として聞く講義の感想等の寄稿をお願いしています。(内藤)

もりさきりか (ポルトガル語医療通訳スタッフ)

初めてMICのニュースレターの編集ボランティアに参加したのはいつだったか。すっかり忘れてしまっていたが、なんと12年前だったことが判明。つまり干支が一回りする間、お手伝いさせていただいたということで、思えばあつという間でした。研修での講義のまとめは、口述筆記でもしてることが多く、ひたすらメモを取りながらの参加と音声ファイルの聞き起こし、まるでここ試験に出るぞ！と言われた学生のような感じでした。

編集後記 2011年12月 60号

今回初めて編集作業に加えていただきました。当たり前のように読んでいたニュースレターがスタッフの方々の努力の結晶であったことに改めて気づかされました。ありがとうございました。

その後、編集後記には毎回自由に書かせていただきましたが、その変遷をたどりながら、徒然に感じたことなどをお話ししていきたいと思っております。

編集後記 2013年9月 67号

今年の暑さは特別なような感じがしますがなんとか生き延びてこられた、というのがこの夏の感想です。本当

に普通の夏、というのがわからなくなっていました。もっとも普通というのが何なのかもわからなくなっているこの頃ですが。

この時かなり暑い夏を過ごしたようですが、もうこのころから普通がなくなってきていたのでしょうか。でもあの頃の私が今年の夏を見たらなんと言うでしょうか。人は何ひとつ先がわからないようです。

こんなのもありました。

編集後記 2014年9月 71号

今年の夏は「奇妙」という言葉で言い表せるかもしれません。東京に雷が降ったかと思えば、ここはシンガポール？とでもいうような突然の大雨と猛暑、そして最後はテング熱。私たちが当たり前に、普通と思っていることは覆されるということを実感した夏でした。どんなことも受け止められるよう、身も心もつねにしなやかでありたいと秋を眼の前にしてつくづく思います。

今となってはそれくらいで驚いていたのかと、言われるでしょう。あの頃に比べるとものすごいスピードで普通がなくなっている世界に今住んでいるような気がするのはわたしだけでしょか。

また春はたいてい花粉症のことに触れていたようです。

編集後記 2014年3月 69号

春は焦らしながら少しずつ近づいてきます。これほど待ちわびる季節、春。今年は特に長く感じた冬の後なのでその明るさが嬉しいです。花粉症の身としては手放しで歓迎とは言えませんが、それでも希望という言葉が一番似合うこの季節、色々な始まりに期待したいと思います。

編集後記 2015年3月 73号

春とはいえ花粉で悩む人にとっては毎日が大変です。花粉症の悩みは今では周りの多くの人と共有できますが、あまり知られていない20年ほど前はただ、気の毒ねという顔をされるばかりでした。知らない病気はたくさんありますが、患者に向き合い、きちんと理解していきたく思います。

こんな感じで、春が来て、夏が来て、とそれなりに、小さな驚きはありながらも過ごして来ました。しかし突然のコロナ禍、人が街から消え、通訳もマスク、フェイスシールドと、様々なことが一変に変わり、もうあの普通が普通ではなくなっていました。

その頃こんな短歌を詠んだりしていました。

「それは寂しいことですね」キラキラとアクリルパネルに囲まれる街

自分と向き合う時間が増え、来し方を振り返ることも多くなって来たように思います。

編集後記 2019年3月 89号

3月も後半に入り暖かい白が続く、桜の花ももうすぐ開花するでしょう。ただ、あんなに待ち焦がれた春なのに、もうすぐそこまできていると思うと、なぜか怯んでしまいます。木や花や虫たちのように、私はまだ準備ができていないような気がしてしまいます。一体何を準備すれば良いのでしょうか。

編集後記 2022年12月 98号

人生は何事も成さぬにはあまりに長いが何事かを成すにはあまりに短い、とは山月記の中の一節。砂時計の残りを眺めるように、自分の残り時間を思うと、これまで何もしてこなかったような気がします。そして、今、目の前の時間にどれほど集中してこられたかは、心配性で考えすぎと言われてきた私には自信がありません。夏ももうすぐ終わります。これからは未来でも過去でもない今をしっかりと受け止めていきたいです。

大昔のことになりますが、小学生のときに父の転勤でブラジルに住んでいたことがあります。まだ

あの頃は道端にハンセン病を患った物乞い（ポリティカリーコレクトではないですが）がいて、崩れた手足の人を見るたびに、恐れと申し訳ない気持ちでいっぱいになったのを思い出します。人は何かを背負って生きていること、公平であるとは何だろうか、を考え、時間のたっぷりあった当時、日本から持っていった本を読み尽くした後は大人の本にまで手を出して答えを探し続けていました。今のMICの活動もその延長としてあるのでしょうか。

当たり前にあると思うと、当たり前前の明日はもしかすると来ないかもしれません。しかしどんな時でも今与えられたことに真摯に向き合い、人との出会い、語り合う時間を大切にしながら、答えを探し続けようと思うこの頃です。

編集後記 2023年6月 99号

暑い中、歩いてると一瞬の風を感じることもある。ほんの一瞬。「今自分を通り過ぎた同じ風はもう二度と自分に吹くことはない。この一瞬だけだったのだ。」
山本周五郎の小説の中の台詞です。振り返ると二度と戻ってこない一瞬一瞬を三年ほど、ここじゃないどこかを思いながらマスクと過ごしていた気がする。あの時間は戻ってこない。風よ、これからは今をしっかりと抱きしめ、味わい、ここに生きていきたい。

<MICちゃん連載>

独特な雰囲気醸し出す画風をお持ちの森内さん。2016年6月第78号で四コマ漫画を描いていたところ「レギュラーでMICちゃんコーナーを！」という声が多数あり、連載をお願いして7年。MICちゃん21に至りました。（内藤）

森内啓子さん（元MICかながわ事務局スタッフ）

ニュースレター100号発行おめでとうございます。2016年6月第78号からMICちゃんを担当させていただいています。「ニュースレターにゆるい笑いを」と、お試しで1回だけ四コマ漫画を描くことになったのがMICちゃんのはじまりです。これがまさか7年も続くとは……。受け入れてくださった皆さんの寛大さに感謝しております。今回は、これまでのMICちゃんとともにこの7年間を振り返ってみたいと思います。

記念すべき第1回目の「コーディネーターの一日」(78号 / 2016年6月)は、ちょうど多言語支援センターかながわの運営業務をかながわ国際交流財団と共同で神奈川県より受託し、県民センター13階に事務局とコーディネーターブースが移転した頃のものでした。当時、事務局スタッフとして勤務していましたが、隣にあるコーディネーターブースの電話の音が鳴りやまなかつたり、担当している一般通訳の中国語通訳の方の調整に四苦八苦しっていた思い出があります。

連載化後も、調整しても患者さんが来ない「no-showはつらいよ」(87号 / 2018年9月)や、公共交通機関が大きく乱れた台風15号接近時の「電車の運休にも負けず36度の暑さにも負けず…」(91号 / 2019年9月)のように、MICの現場を知る皆さんからいただいたネタをもとに、実情がゆる〜く伝わればいいなあ…と、デフォルメして作っていました。



2016年6月 78号
「コーディネーターの一日」



新型コロナウイルスの真っ只中、まだワクチンもなく緊急事態宣言で街が閑散としていた時に描いたMICちゃん(93号/2020年6月)の際は、さすがに今回はMICちゃんお休みかな……と思っていたので、今見るとちょっとMICちゃんらしからぬ感動タッチでやや気恥ずかしいです(でも、そんな世間の空気でしたよね)。

とはいえ、ここにも書いた通り、それが笑い話になる未来がきたことに安堵しています。これからいろいろなきことがきつとあるかと思いますが、引き続き陰ながらMICかながわを応援しています。

MICちゃん最新号は8ページをご覧ください。

<ニュースレター編集担当>

2002年5月、MICかながわから届いた1枚のはがき。【事務局ボランティア募集】事務局を訪ねたとき、当時の事務局長から開口一番「何ができますか?」と聞かれ、「こどものPTAでは広報をやっていました」「では、ニュースレターをお願いします」その一言から20年以上もニュースレター作成に携わることになるとは…。

内藤まゆみ (MICかながわ事務局スタッフ、タイ語医療通訳スタッフ、通訳コーディネーター)

2000年頃だったでしょうか。3年弱のバンコク生活から帰国し2年ほどが経った頃。このままでは、タイ語を忘れてしまう! 覚えたタイ語を使って何かできないかと横浜市内のボランティア団体に目を向け始めました。YOKE(横浜市国際交流協会)に市民通訳ボランティアとして登録したときYOKE研修担当者は現MICかながわ事務局スタッフの森田佐知子さんでした。ちょうど同じ頃、学生時代の友人から横浜市金沢区で外国人の支援や交流を行っていた『ふれんず金沢』というボランティア団体を紹介されました。そこで出会ったのがその後MICかながわで一緒に活動することになる岩元陽子さんや岩本弥生さんでした。

『外国人医療とことばの問題を考える会』主催の医療通訳講座に『ふれんず金沢』から参加する機会

もあり、2002年4月に行われたMICかながわ設立総会に縁あって参加しました。しばらく経った頃にMICかながわから1枚のはがきが届きました。【事務局ボランティア募集！】ちょうど子どもたちの学校のPTA活動が終わり次は何をしようかなと考えていたときだったので、軽い気持ちで応募。その6月からはMICかながわの事務局ボランティアとしての新しい日々が始まりました。

事務局にいたスタッフ、ボランティアは、日本人より外国出身の人が多かったです。ペルー、韓国、中国、台湾、ブラジル。それまで日本とタイのことしか知らなかった私でしたが、「へえ、そうなんだ」「知らなかったあ」と単におしゃべりをするだけでも、新しい知識がたくさん入ってきました。

これは余談になりますが、若い頃、ある有名な占い師に手相を見てもらったことがあります。「あなたは将来外国につながる運勢がある」当時、私は海運会社に勤めていたので、そのことかしたら、当たっているといれば当たっていると簡単に考えていました。でも、現在の自分を見てみれば、まさにそのとおり！ 短かったものの海外での生活を経験し、そしてその縁をつなぎ続け、日本で暮らすタイの人たちとも新たな縁を紡ぐこともできました。本当に不思議ですね。タイから帰ってきて、タイ語を忘れたくないと思わなかったら、今の私は何をしていますでしょう。

さまざまな人と出会い、助けを借りながら、ニュースレターを100号まで発行してきました。古山さん、久次さん、森崎さん、森内さん、そして寄稿してくださった皆さま、インタビューに応じてくださった皆さま、役員の皆さま、ありがとうございました。

Multi-language
Information
Center

MIC かながわ

特定非営利活動法人 多言語社会リソースかながわ
ニュースレター No. 1 (July, 2002)

MIC かながわ活動を始めてからまもなく3ヶ月を迎えようとしています。初めてのニュースレターをお届けします。今後報告や予定を含めて情報などをお知らせする予定でありますので、会員の皆さまも内容に関するご要望がありましたら、どうぞ事務局までお寄せください。

7月活動予定

- 9日 かながわ外国人医療フォーラム2002実行委員会
- 15日 消防学校救急隊員教育訓練事業外国語講座 (英語・中国語・スペイン語)
- 17日 かながわ外国人籍国民医療通訳サービス支援モデル事業研修
- 19日 自治体国際化協会(CLAIR) 多言語医療マニュアル(生活ガイド医療編) 全国汎用版(HPC化)作成検討会
- 20日 かながわ外国人医療フォーラム2002 -外国人医療のあしたにむかって-
- 21日 横浜市国際交流協会「横浜・外国人無料相談会」

＜活動報告＞

- 5/31 かながわ外国人医療フォーラム2002 実行委員会
- 6/10 かながわ外国人医療フォーラム2002 実行委員会
- 6/12 かながわ県民活動サポートセンター NPOマネジメント相談会 「団体の財務会計」受講
- 6/19 医療通訳者の集まり
- 6/20 救急救命士新人研修 打ち合わせ
- 6/21 第4回理事会
- 6/22 さがみはら国際交流ラングージン学会 「医療英語」企画、講師
- 6/26 東大学生訪問 第6回医療通訳制度検討委員会
- 6/29 かながわ県民活動サポートセンター NPOマネジメント相談会 「団体の財務会計」受講

かながわ外国人医療フォーラム2002

日時：7月20日(土) 13:00~17:00
会場：神奈川県社会福祉会館 4階 第1・2・3研修室
参加費：500円
内容：第一部 基調報告・報告
県内外の外国人医療について
医療通訳サービス支援モデル事業について
外国人医療機関調査の分析結果
第二部 分科会
外国人医療をめぐる問題の基礎
医療通訳と医療システム
問合せ・申込み：
かながわボランティアセンター (担当：松永)

公演「MIZUSHOBAI」

フィリピン・BATIS 劇団アドボカシー
日時：7月16日(火) 18:30~20:30
会場：自治労横浜会館2階B会議室 参加費…500円
問合せ…なか伝道所 045-671-1109

経費節減にご協力をお願い

今後、MICからのお知らせはメールのみでかまわないという方は、お手数ですが下記のメールアドレスまでご連絡いただけます。また、メールアドレスをお知らせいただいても、ぜひお知らせください。

事務局ボランティア募集!

電話番号や雑務など、週1回数時間でも定期的に事務作業のお手伝いをしていただける方を募集しています。特に水、金、なかでも金曜日の事務所番をしていただける方を急募!

ご寄付ありがとうございました♥ 黒田郁子さん 桜子・テール 権野紀子さん コーヒーカップ・コップ

MIC かながわ 〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-9-22 日興パレス横浜703
Tel.&Fax.: 045-314-3368 E-mail: mickanagawa@yahoo.co.jp
URL: http://www.geocities.jp/SweetHome-Ivory/3748/

Multi-language
Information
Center

MIC かながわ

特定非営利活動法人 多言語社会リソースかながわ
〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町 3-30-1 農機舎館503
Tel: 045-314-3368 Fax: 050-1156-1977
e-mail: mickanagawa@yahoo.co.jp
URL: http://www.geocities.jp/mickanagawa/

ニュースレターは、MICかながわ会員にお届けしております。 ニュースレター No.40 May 2007
MICかながわが設立されてから丸5年が過ぎました。ここに至るまでの会員ならびに医療通訳スタッフ、そして関わってくださった皆様のご理解とご協力に、改めてお礼申し上げます。

特集：数字で見るMICかながわの5年間

2002年4月13日に設立総会が開催され、いくつかの団体名候補の中から『多言語社会リソースかながわ』(英語名: Multi-language Information Center Kanagawa)に決まり、その語文字をとった愛称『MICかながわ』が生まれました。横浜駅からほど近いワイルド・マンションの1室にて英語を話し、当初はかかってくる電話も少なく、電話の対応に追われる今日のような日が来ることは予想もできませんでした。

派遣協力病院の拡大

2004年4月より
6病院 → 16病院

済生会神奈川病院 (横浜市)
社会保険横浜中央病院 (横浜市)
太田総合病院 (川崎市)
北里大学病院 (相模原市)
海老名総合病院 (海老名市)
東海大学医学部付属病院 (伊勢原市)
6病院 (2002年8月)

派遣対象言語の拡大

2005年12月

中国語・スペイン語・ポルトガル語・
ロシア語・タガログ語
5言語 (2002年8月)

中国語・スペイン語・ポルトガル語・
ロシア語・タガログ語・英語・タイ語・
ベトナム語・カンボジア語・ラオス語
10言語 (2005年12月)

医療通訳スタッフ登録数の推移

	2002年8月	2003年10月	2004年12月	2005年12月	2006年12月	2007年4月
中国語	5	15	24	24	23	21
スペイン語	12	22	35	22	49	45
ポルトガル語	7	14	19	22	24	25
ロシア語	5	8	10	13	11	10
タガログ語	6	5	6	8	9	8
英語	—	7	14	14	12	13
タイ語	—	7	7	8	12	9
ベトナム語	—	—	—	2	3	3
カンボジア語	—	—	—	4	5	6
ラオス語	—	—	—	1	2	2
合計	35名	78名	115名	140名	150名	142名

第1号はA4サイズ1ページでした。外国人支援に関わる方々からの寄付、熱意でMICかながわはスタートしました。

設立5年が経過しました。協定医療機関の数、派遣対象言語の数、通訳スタッフの人数、いずれも着々と増加してきました。

医療通訳は、患者さんと医療者の間に存在することばの壁をなくすためにお手伝いをしています。命にかかわる通訳をすることも多く、とてもたいへんですが、皆、やりがいを感じて活動しています。どのような活動なのか、医療通訳スタッフからのエピソードを通してご紹介しましょう。

2018年度登録 Sさん

「えっ、私 でのいいんですか!？」これが定例通訳(※)の打診をいただいた時の私の第一声でした。暗澹たる気持ちを抱えていたコロナ禍真っ只中の頃はこんな日が来るとは思っていませんでした。それほど定例通訳は私にとって大きな目標であり、思いがけないタイミングでチャンスを得たことは至上の喜びでした。 ※決められた曜日・時間帯にその医療機関で待機して、来院患者に対応します。

ただ、そこからが難題でした。普段の医療通訳では事前に患者さんの情報をいただいて、自分で出来る限りの準備をして行きますが、定例通訳の場合は診療科も患者さんの病名も何もわからないぶっつけ本番です。まずはMICに入る前の1か月余りの大変だった医療通訳新任養成研修のことを思い出して、一通りのおさらいをすることにしました。原点回帰するために医療通訳の心得10か条も見直しました。

○月○日

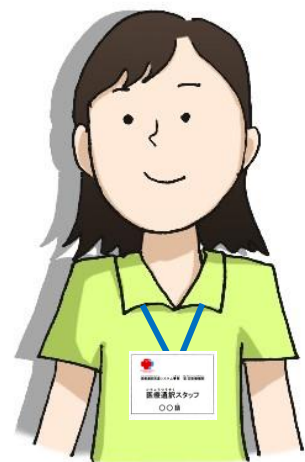
いよいよ定例通訳初日。最初はとても緊張していましたが、いざ始めてみると次から次へと患者さんへの対応があり、あっという間に数時間が過ぎたように思います。

今日の通訳を振り返ってみて、まあ言えば良かった、こっちの単語を使えば良かったなど反省点は数々ありますが、本当に自分自身の勉強になり、得難い経験をさせていただいたことに感謝しています。これからは医療以外のことにも対応できるように視野を広げるようにしなければ、と新たな活力も湧いてきました。

○月○日

定例通訳2回目。多くの患者さんが遠くからこの病院を頼りに通っていらっしやると知り、医療通訳の必要性を再確認することができました。と同時に病院と患者さんの架け橋として、私自身ももっとスキルアップしたいとも思いました。私を医療通訳として育て、鍛えてくださるのは他ならぬ患者さん達であり、毎回学ぶことばかりです。

MICの一員として活動させていただけることは私の誇りです。医療従事者の方々、MICの事務局、コーディネーターの皆さんに支えられていることを忘れずに、そして何よりも自分自身の健康管理に留意して今後も活動を続けさせていただければと願っています。



MIC かながわ事務局スタッフ募集!
 研修事務等を担当してくれるスタッフを募集しています。詳しくは、MIC かながわホームページをご覧ください。
<https://mickanagawa.web.fc2.com/recruit.html>

- 7月7日(金) 北里大学看護学部統合実習
協力：矢島 Co.・英語通訳、佐藤中国語通訳、菊タガログ語通訳、エリオソタガログ語通訳
- 7月18日(火) 一般通訳協力者研修（第2回基礎研修）
- 7月19日(水) アステラス製薬（株）社会貢献マネジメントグループ インタビュー
対応：飯島、内藤事務局スタッフ
- 7月27日(木) 医療通訳派遣システム事業 第1回運営委員会部会（オンライン）
出席：松野理事長、早川副理事長、佐藤副理事長、内藤 Co.・タイ語通訳、平井ポルトガル語通訳、草間事務局長
- 8月9日(水) 医療通訳派遣システム事業 第1回運営委員会本会（オンライン）
出席：松野理事長、早川副理事長、佐藤副理事長、草間事務局長
- 8月28日(月) 第1回コーディネーター研修
- 9月26日(火) 日本社会事業大学学生インタビュー 対応：岩元 Co.・英語通訳
- 10月8日(日) 外国人無料健康相談会 於：カトリック溝ノ口教会
- 10月15日(日) カトリック藤沢教会バザー参加
- 10月26日(木) 神奈川県消防学校専科教育救急科教育訓練外国語
講師：星中国語通訳、ヒューバート会員（英語）、バルガス会員（スペイン語）
- 11月4日(土) 多文化間精神医学会学術総会 シンポジスト：松野理事長
- 11月5日(日) 外国人無料健康相談会 於：カトリック藤沢教会
- 11月11日(土) 千葉県国際交流協会 コミュニティ通訳・翻訳サポーター養成講座（オンライン）
講師：田中理事・Co.・英語通訳、清水（秋）中国語通訳
- 11月18日(土) 千葉県国際交流協会 コミュニティ通訳・翻訳サポーター養成講座（オンライン）
講師：鈴木（万）英語通訳
- 11月30日(木) 一般通訳協力者研修（第3回基礎研修）
- 12月9日(土) 福井県国際交流協会 医療通訳サポーター養成講座
講師：岩本理事・ポルトガル語通訳
- 12月10日(日) カトリック藤沢教会ミニバザー参加
- 12月15日(金) 医療通訳フォローアップ研修 アドバイザー：岩本理事・ポルトガル語通訳
- 12月22日(金) 立教大学学生インタビュー 対応：森田、内藤事務局スタッフ
- 12月23日(土) 大和市国際化協会 通訳ボランティア研修会(学校) 講師：赤澤 Co.・ポルトガル語通訳

事務局からのお知らせとお願い

MIC かながわは X（旧 Twitter）や Facebook で
情報を発信しています。

X のアカウント @MIC_Kanagawa

Facebook ページ www.facebook.com/Mickanagawa

X や Facebook にアカウントを
お持ちの方は、MIC かながわの活動や
情報が、より多くの方に伝わるよう
ご協力をお願いします。



～書き損じハガキを寄付してください～

もし、ご家庭に書き損じ郵便ハガキや未使用
切手が眠っていましたら、ご寄付をお願いし
ます。事務所にお送りいただくか、研修等
でお会いできる機会があれば事務局スタッ
フにお渡してください。事務局での業務に
利用させていただきます。
ご協力よろしくお願ひします。

にちじ
日時：7月8日（土）15：30～17：30

ないよう
内容：①個人情報について 神奈川県国際文化観光局国際課 伊藤 綾氏

じむきょく
②事務局からのお知らせ

がんか びょうき
③眼科の病気について ～ぶどう膜炎、糖尿病性網膜症、加齢黄斑変性を中心に～

こうし
講師：北里大学医学部非常勤講師、神奈川県歯科大学附属横浜クリニック眼科科長 市邊義章氏

さんかしゃ
参加者：102人

かながわけんこくさいか
神奈川県国際課からの「個人情報について」の話では、3月に行った前回の現任者研修で、個人情報についてMICかながわのルールを再確認するグループワークをしたばかりなので、なぜルールを守らなければいけないのか、どういった点に注意するべきなのか、より深い理解を得ることができました。

がんか
眼科についての講義では、目の構造、見えるしくみ・見えなくなるしくみ等の基本的な話から始まり、糖尿病性網膜症、加齢黄斑変性、ぶどう膜炎の順に、最新の検査方法や治療方法の紹介も交えながら講義が進みました。

み
見えなくなる原因は目だけではなく頭の中にあることもあるので、患者が「右が見えない」と訴えるとき、「右目が見えない」のか「右の方が見えない」のかで原因が違うというお話に、医療通訳が介入すること、正確に通訳することの重要性を改めて感じました。

むづか
難しい内容でしたが、実際の患者さんの写真、図など視覚情報を駆使してのわかりやすい説明でした。動脈・静脈・新生血管、画像診断のポイントなど詳細で具体的な解説は、専門医ならではの貴重なお話でした。

こうぎご
講義後、「加齢黄斑変性の原因は」「眼病から全身性の病気の診断をつけることがあるのか」など活発に質疑応答が行われ、参加者から「先生の講義はわかりやすく、とても勉強になった」との感想が多数寄せられました。また、「眼科の通訳は多いので役立つ」という感想が多い一方、「眼科の通訳の機会は少ないが糖尿病等の通訳の機会は多いので有意義な講義だった」との感想もあり、参加者がみな各々の通訳活動と結び付けて学べた講義となりました。

にちじ
日時：7月24日（月）15：00～16：30 <オンライン>

テーマ：（1）児童相談所で通訳をするために知っておきたい知識

じどうそうだんじょ
① 児童相談所の役割と相談の流れ

じどうぎやくたい
② 児童虐待ケースへの対応 他

こうし
講師：県中央児童相談所 高橋かすみ氏

（2）通訳体験談：中国語通訳 嶋崎郁恵氏

さんかしゃ
参加者：60人（13言語）

じどうそうだんじょ
児童相談所からの通訳依頼は多く、2021年度は60件、2022年度は65件の派遣実績がありました。最も多いのは療育手帳に関するのですが、虐待ケースの通訳も少なからずあります。児童相談所は一般的にはなじみが薄い機関でもあり、通訳者には基礎的な知識が必要です。

こうし
講師から、まず児童相談所の役割について説明がありました。日本の児童相談所は、相談と措置のふたつの機能を併せ持っていることが特徴的です。そこで働くスタッフの専門も福祉・医療・法律分野等にまたがっており、外部の様々な機関と連携して支援を行っています。

児童虐待には、①身体的、②心理的、③性的の各虐待と④ネグレクトがあり、昨年度県内で一番多かったのは心理的虐待だそうです。子どもにとって家が安心な場所になっていないケースであり、子どもの前で夫婦喧嘩をするのも虐待だとのことでした。また、通訳者へのお願いとして、職員は外国につながる方の文化的背景をあまり知らないのぜひ教えてほしいとのことでした。

通訳の体験談では、子どもの虐待だと思っていたが話を聞くと親の夫婦間のDVもあるとわかり、面接でより慎重な通訳をする必要があったという話がありました。

参加者から寄せられた感想の一部を紹介します。

- (一般通訳)最初の研修では内容を足さない、引かないということ学んだが、依頼者の安全を守るためには状況によってそれも臨機応変に対応することがだいじだと学べた。
- 通訳の言葉の選び方の大切さがひしひしと伝わってきた。
- 虐待の場合、どんな通訳になるのかを想像することができた。
- 児童相談所に対する社会のイメージには否定的なものが少なくないので、忙しいなかでも子どもファーストで対応してくださっている様子が伝わってきて安心した。
- 日本人のお子さんの問題でも複雑なのに、外国の文化が背景にある虐待の対処の大変さを知った。
- 外国人の保護者には、日本の法律で禁止されていること、あるいはそれが虐待行為に当たることが受け入れにくい。

2023年度医療通訳ボランティア養成研修

今年度は、スペイン語、ポルトガル語、タガログ語、英語、カンボジア語、ネパール語の6言語で募集を行いました。ネパール語での応募がなく、急ぎよフランス語を追加募集しました。

応募総数68人。書類選考および事前面接選考(英語のみ)を経て、26人が養成研修に参加しました。最終的な登録者は13人(スペイン語3人、ポルトガル語3人、英語、6人、フランス語1人)でした。

11月17日(金)のオリエンテーションで神奈川県(かながわ医療通訳派遣システム自治体推進協議会)より委嘱状が交付されました。その後、2回の研修派遣(スーパーバイザー同行①見学②実地通訳)を経て、スーパーバイザーから独り立ち合格ラインに達していると判断されると、医療通訳スタッフとして通訳活動開始となります。

	にっけい 日程	かいじょう 会場	ないよう 内容
1	9月7日(木)	かながわけんしよくいん 神奈川県職員 キャリア開発 支援センター	<p>①開講の挨拶 (MIC かながわ理事長 松野勝民氏)</p> <p>②神奈川県医療通訳派遣システム事業の概要 (神奈川県国際文化観光局国際課 伊藤綾氏)</p> <p>③MIC かながわについて (MIC かながわ理事長 松野勝民氏)</p> <p>④医療機関の仕組み・医療制度 (川崎市立川崎病院 ソーシャルワーカー 手塚順子氏)</p> <p>⑤多文化共生について (立教大学大学院特任准教授 金迅野氏)</p> <p>⑥医療通訳の心得/⑦医療の基礎知識 (MIC かながわ理事・港町診療所医師 沢田貴志氏)</p>

2	9月15日(金)	かながわ県民センター 会議室	①病院での個人情報保護と対人援助スキル <small>(国際親善総合病院 ソーシャルワーカー 井出みはる氏)</small> ②医療通訳の現場から (MIC かながわ英語医療通訳スタッフ <small>岡田純一氏・同ポルトガル語医療通訳スタッフ 鈴木真由美氏)</small> ③これからの活動のために ～神奈川県に暮らす外国人と役に立つ社会資源～ (かながわ国際交流財団 藤分治紀氏) ④筆記テスト
3	10月7日(土)	神奈川県職員 キャリア開発 支援センター	言語別通訳演習 <small>各言語に講師、母語話者(患者や家族)役、日本人(医療者)役、スーパーバイザーを配置。受講者は通訳として参加し、シナリオに沿ってロールプレイを実施。</small>
4	10月14日(土)	神奈川県職員 キャリア開発 支援センター	言語別通訳演習・選考面接 <small>前回に引き続き演習を行った後、個別に面接(通訳実技・活動可能状況の聞き取り等)を行い、当システムへの登録について選考。</small>
5	11月17日(月)	かながわ県民センター 会議室	オリエンテーション(医療通訳スタッフ新規登録者対象) <small>委嘱状、名札、身分証明書、ボランティア保険加入者証の受け取り/医療通訳派遣システム事業の概要や通訳活動に関する注意事項等の説明/コーディネーターとの意見交換</small>

●外国籍県民支援人材研修(オンライン) <多言語支援センターかながわ研修>

日時 : 10月24日(火) 15:30~17:00 (オンライン)

内容 : 「在留資格と国籍の基礎知識」

- ①在留資格とは ②国籍の基礎知識 ③外国籍家庭に赤ちゃんが生まれたときの大切な手続き ④赤ちゃんの国籍 ⑤親がオーバーステイの場合などについて

講師 : 行政書士 美濃口峰華氏

参加者 : 118人 (県内21の市町の保健師、助産師、看護師、ケースワーカー、事務職の方々)

神奈川県内自治体の母子保健担当者を対象に行われた研修ですが、予想以上に受講希望者が多く、それぞれの地域での問題、課題に対応している担当者たちの悩みが垣間見えました。

参加者からの感想の一部を紹介します。

- 外国人が多く住む自治体のため、今までなんとなく理解していたようなことを明確に知ることができてよかった。
- オーバーステイや出産時の手続き等で支援することが多いため、より具体的に話が聞きたかった。
- 各手続きの期間が思いのほか短く、外国籍の方に情報を正しく伝える必要があると感じた。
- 初めて在留資格の講習会に参加したので、制度が難しいと感じ、理解できないところもあった。
- 母子保健に関係する支援では、お国柄等も考慮し接しているが、法的な諸手続きについて、関係部署と連携しつつも、近年は特に保健師もある程度知っておく必要があると感じている。
- なんとなく理解していたことが、間違っていたことも多く、改めることができた。

- さまざまなサービスを利用するためにも在留資格を明確にしておくことが必要だと学ぶことができた。在留資格に関してどのような資格を持っているのか、それで何が出来るのかを行政職員が知っておくことで資格に関する違反を減らすことができるのではないかと思った。
- 基礎知識を学べたが、まだまだわからないことがあるので、引き続き学習を深めていきたい。所内で今回の学びを伝達していきたい。

●一般通訳協力者研修（専門）（オンライン）＜多言語支援センターかながわ研修＞

日時：11月9日（木）15：00～16：30 ＜オンライン＞

テーマ：（1）家庭裁判所の調停で通訳をするために知っておきたい知識

- ① 家庭裁判所の役割
- ② 調停の仕組み
- ③ 調停で話し合われる主な内容（離婚、親権、養育費等）についての基礎的な法的知識
- ④ 通訳者として注意すべきこと

講師：横浜家庭裁判所調停担当主任書記官 小川英之氏

（2）通訳体験談：英語・ポルトガル語・スペイン語通訳 山口正幸氏

参加者：61人（13言語）

かながわ一般通訳事業では、原則として裁判所への通訳派遣はしません。ただし、家裁の家事調停（相続関連を除く）だけは派遣対象としています。依頼は外国人当事者からがほとんどです。通訳内容は離婚、親権、養育費などですが、通訳登録者の多くは調停のしくみや法的な問題にあまり詳しくないのが現状で、依頼をしても不安が大きく辞退される方もいます。そこで、家庭裁判所での調停の通訳活動をできるだけ不安なく、適切に行えるよう今回の研修を開催しました。

家裁書記官からは、調停の趣旨、仕組み、メリット、当日の流れに続き、通訳の依頼が多い離婚を例にとり、第1日目にはどんな話がされるか、離婚の種類、親権、面会交流などについての解説がありました。調停の性質から、本人自ら主体的に取り組む姿勢を求められることや通訳には当事者への感情移入をしないようにしてほしいとのお話もありました。また、最近ではWEBによる調停も試行されているようで、今後はもっと多くなっていくのではないかとのことでした。

英語・ポルトガル語・スペイン語の3言語で登録している通訳協力者からの調停通訳の体験談では、用語のむずかしさ、特にどの訳語を使ったらよいか迷うことがあるという話もありました。

参加者から寄せられた感想の一部を紹介します。

- 両親の離婚から派生して生じる親権や監護権、養育費や面会交流を調停によって決めていく流れが大変よくわかった。また通訳として求められる位置取りについても確認できた。
- 家裁での通訳と聞くとやはり周りにどんな人がいて、どんな場所で、どんな話が出てくるのか最初は不安になるので、家裁の役割、調停の内容などが具体的に分かってよかった。
- ふだんなかなか知る機会のなかった家裁と調停についてのお話をお聞きでき、だいぶ具体的なイメージが沸いた。また、知っておくべき用語や、専門的な用語（試行的面会交流、夫婦関係調整など）を知ることができてよかった。
- 通訳の言葉の選び方の大切さがひしひしと伝わってきた
- 複雑な家族関係を扱う場合は相関図を書いてもらうなど、参考になった



日時： 11月26日（日）13：20～15：20

会場： かながわ県民センター2階ホール

内容： ① 講義「循環器科の病気と治療について
 通訳に知っておいてほしい基礎知識」

講師： 徳洲会湘南大磯病院 副院長・医師
 高橋佐枝子氏

② 事務局からのお知らせ

参加者：103人



循環器科の病気といっても様々あり、その病気にかかっている患者さんの通訳として担当しなければ、漠然とした捉え方のみで終わっていたところ、今回整理していただいたおかげで、最低限知っておくべき情報が何か分かりました。抑えるべき疾患は、不整脈、虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症）、心不全、弁膜症の四つ。病態、治療法や検査方法など診察室で出であろう用語も含めての説明を詳しくしていただきました。

講義の中で説明があったペースメーカーについて少し整理してみました。ペースメーカーは、主に徐脈性不整脈で起こる症状を防ぐために使われ、チタンケースで覆われた本体と、細いリードと呼ばれる導線からできており、本体にはリチウム電池と小さなコンピューターが内蔵。心臓の電気回路の状態を絶えず観察して必要に応じて心臓に電気刺激を送り、体に必要な脈拍数を確保します。近年では改良が進み、小型化して薄くなり、電池寿命も10年程持つようになり年間6万人の患者に植え込まれているとのこと。また本体は胸の皮膚の下に植え込むのが主流でしたが、リード不要で直接心臓の中に植え込むリードレスペースメーカーも登場。趣味のダイビングを楽しむため、タンクの紐が当たらないように胸に植え込まない、重さ2.0gのカプセル型のリードレスタイプを選ぶ方もいるそうです。最近では、心臓の拍動を利用して発電する電池交換不要のペースメーカーの開発が始まっているとか。

何かと不安を誘うニュースが流れる先の見えない今、こうして、医学の発展と技術の進歩が人を自由にしていくのを知り、未来への希望がまたひとつ増えた気がします。（医療通訳スタッフ Mさん）

日時： 12月2日（土） 14：00～17：00

会場： 港湾労働者福祉センター会議室（港町診療所2階）

内容： 県内在住タイ人対象 コミュニティ通訳講座

① コミュニティ通訳の基礎

講師： MIC かながわ理事・ポルトガル語通訳 岩本弥生氏

② 医療通訳の基礎（産婦人科）

講師： 港町診療所 助産師 竹田千尋氏

③ ロールプレイ練習

ロールプレイ協力者：

タイ語通訳 野田スカンヤ氏、森本ターパニー氏

Co. タイ語通訳 鈴木久美子氏

参加者：6人



タイ出身者を対象に「産婦人科での通訳の基礎」をテーマとした研修会を行いました。
 初めにコミュニティ通訳とは何か、通訳するとき特に気を付ける基本を学び、次に妊娠、出産、不妊、女性の病気、更年期などについて、幅広く学びました。最後に、産婦人科での診察場面を想定し2グループに分かれて通訳ロールプレイ練習をしました。
 外国出身で日本に長く住んでいる方々は、家族や友だちに頼まれて病院や役所などで通訳することも多く、そうした方たちが適切な通訳ができるよう、これからもこのような研修を行う予定です。

＜参加者からの声＞ ●勉強になった。私も通訳活動をしてみたい。 ●通訳の経験がないので、自信をもって通訳ができなかった。 ●女性として知るべきことを学べたのがよかった ●もう少しゆっくり勉強したかった。

●一般通訳協力者フォローアップ研修（オンライン） <多言語支援センターかながわ研修>

日時：12月13日（水） 15：30～17：00

内容：1. ① 体験談—高校三者面談 赤澤Co. ・ポルトガル語通訳
 ② 体験談—特別支援学校保護者面談 宮川Co. ・スペイン語通訳
 2. グループ別 体験談・情報共有

参加者：15人（6言語）

一般通訳は活動回数が少ないので「経験者の話を聞きたい」という声があり、通訳の体験シェアを中心とするフォローアップ研修を企画しました。今回は、依頼がいちばん多い県立高校での通訳と、2番目に依頼が多い特別支援学校での通訳についてそれぞれ体験談をお願いしました。

県立高校での通訳では、三者面談のほかに入学説明会など大人数の中で通訳しなければならない場合の注意や参考になるサイト・書籍の紹介がありました。また学校特有の専門用語やふだん私たちが使っているのとは違う意味で使われる言葉が出てくることもあり、とまどったという話がありました。

特別支援学校では、概要紹介と高校の「分教室」についての説明、面談で通訳する主な3つの内容についての解説がありました。また同席する先生が複数になるので、どの先生がどんな役割なのかを知ることが大切であること、卒業後の進路はその生徒の人生に関わるので特にていねいに訳さなければならないという話がありました。

その後、2グループに分かれ、おふたりを助言者に、質疑応答や自分の体験のシェアを20分ずつ行いました。

- 参加者から寄せられた感想の一部を紹介いたします。
- 通訳はひとりで行くので、他の方がどのように通訳し、その場の状況をどのように感じているのかを知ることは、自分がひとりではないと思えて心強かった。
 - 進路に関わる面談をどのように乗り切るのかイメージが湧いた。
 - 通訳同士で情報共有し、気持ちに共感したりすることは今後の励みになる。
 - 経験の多い登録者の方からの話ももっと聞きたかった。
 - なんとなくみなさんと仲間だと感じた。
 - 定期的に開催してほしい。また同じ言語の人たちと交流会などしてみたい。



げんご 言語グループ	にちじ 日時	かいじょう 会場	ないよう 内容
ちゆうごくご 中国語	7/22(土) 10:00~12:00	かながわ県民 センター	りょういく 療育センターの通訳の心構え／病名リストの学習
	10/21(土) 14:00~16:00	みなみ多文化 共生ラウンジ	せいけいげかじんたい 整形外科・靭帯について(体験談)／基礎演習／次回 がいぶこうし 外部講師へのテーマ募集
スペイン語	9/9(土) 14:00~15:30	かながわ県民 センター	のうこうそく 脳梗塞(小脳梗塞)患者の転院から退院までの流れ／ にほんご 日本語一スペイン語クイックレスポンス練習／スペイン ごけん 語圏でのNGワードについて／勉強会についての意見交換
	11/11(土) 14:00~15:30	Zoom	あいち医療通訳システム活動内容について(全言語 たいしやう 対象)、今後のスペイン語勉強会の予定について
ポルトガル語	7/30(日) 13:30~16:45	かながわ県民 センター	のうそちゆう 脳卒中についてポルトガル語による講義 こうし 講師:イトウ・エンリケ・ジョルジ氏(脳神経外科ブラジル人 いし 医師)、質疑応答、意見交換／事例検討
	10/15(土) 13:00~16:45	かながわ県民 センター	のうしゆう 脳腫瘍についてポルトガル語による講義 こうし 講師:イトウ・エンリケ・ジョルジ氏(脳神経外科ブラジル人 いし 医師)、質疑応答、意見交換／事例検討
	12/17(日) 13:00~16:30	鶴見国際交流 ラウンジ	つうやくじ 通訳事例検討および情報交換／意見交換および通訳時 やくだ に役立つ情報や表現の共有
タイ語	8/20(日) 15:30~17:00	Zoom	こうねんきしょうがい 更年期障害について／事例検討
	10/28(土) 15:30~16:50	Zoom	そうきょくせいしょうがい 双極性障害について／事例検討
	12/3(日) 15:30~17:00	Zoom	たいじょうほうしん 带状疱疹について／事例検討
えいご 英語	7/29(土) 13:00~16:30	にしくふくしほけんかつどう 西区福祉保健活動 きよてん 拠点フクシア	せいけいげか 整形外科(形成外科)「解剖学・病気の機序」「変形性膝 かんせつしょう 関節症」／シャドーイング／ロールプレイ
	9/9(土) 13:30~15:30	にしくふくしほけんかつどう 西区福祉保健活動 きよてん 拠点フクシア	びょうびょうりしんだんちりやう パーキンソン病の病理、診断と治療／ロールプレイ／連絡 じこう 事項
	11/12(日) 13:30~16:00	にしくふくしほけんかつどう 西区福祉保健活動 きよてん 拠点フクシア	ひにようきかだんせいせいしよきふく 泌尿器科(男性生殖器含む)「解剖学・病態の説明」「性の たいうせい 多様性」／ロールプレイ(不妊治療・先進医療)

しゅげいぶ 手芸部だより

ニュースレターは今号で発行第100号とのこと、おめでとうございます。ニュースレターの作成に携わって
 いらっしゃる方々にお祝いを申し上げます。私たち手芸部は、MICが行っている事業の報告や予定などが掲載
 されているニュースレターに、「課外活動」である手芸部の記事を載せていただくことに当初とまどいがありまし
 たが、気分転換とか彩りというような位置づけでいいのかなと理解して書かせていただいています。そして、ご
 縁があってバザーに参加させていただくようになり、収益をMICに寄付できていることで、MICの中での市民権
 を確かなものとするのができたのかなと思っています。

手芸部は設立10年を迎えました。活動の大きな柱となっているバザーのご縁をいただいた経緯について、前
 理事長の鶴田光子さんに寄稿していただきました。感謝をこめて掲載させていただきます。

とくべつきこう
<特別寄稿>

きょうかい さんか
教会バザーへの参加

しゅげいぶ ふじさわきょうかい しゅってん せいかく きょうく
MIC手芸部のカトリック藤沢教会バザーへの出店は正確には記憶がありませんが、10
ねんいじょうまえ
年以上前のことでしょうか。

わたし つるた かよ きょうかい かいさい まいとしきょうかい ほか おお
もともと私、鶴田が通っている教会で開催され、毎年教会のメンバーの他に、多くの
ふくしだんたい しゅげいぶ しゅってん かつどうしきん え
福祉団体、NPOが出店し、活動資金を得ておられました。

そこで手芸部も出店し、得た収益をMICに寄付することができればと考えました。
しゅげいぶ かつ かいだく え きょうかいだんとつしゃ もう こ かず でみせ なか わ こ
手芸部の方のご快諾を得て、教会担当者に申し込み、数ある出店の中に割り込ませていた
だきました。参加当初の私の仕事(?)は当日朝早く教会に行き、戦国時代のように多くの団体がひしめく
あた ちい ぼしよ おお だんたい しんごう は つ まも きょうかい おも
与えられた小さな場所を大きな団体に侵攻(?)されないように張り付けて守っていることでした。教会とは思え
ませんね(笑)。

それ以来手芸部は他の会員や善意の方々の協力も得て、メンバーの人柄と作品の良さで、今バザーの中に大き
きぞんざい せんざい とうしよ わたし きょうかい ちゅうかいやく いま わたし ししよ
な存在感を示しています。当初は私が教会とMICの仲介役でしたが、今や私なしでも、何の支障もなくつな
がっています。

これからも手芸部がさらに良い作品を提供し、収益をあげ、それとともに、MICの使命や活動をバザーを
とお せつきよくてき ひろめ ねが
通してさらに積極的に広めてゆけたらと願っています。

2023年11月 つるた みつこ
鶴田 光子



ほうちく
・・・バザーご報告・・・

10月15日の日曜日、藤沢教会のバザーが開催され、鶴田前理事長に繋いでいただいたご縁でMIC手芸部は
しゅげいぶ に出店参加させていただきました。コロナ禍で主催者の判断により3年間休止となっていたことが、今年、規模を
しゅくしやう 縮小して、ようやくの再開となりました。天気予報のとおり前夜から雨、そしてバザー終了の昼頃まで降り続
くという運の悪さでしたが、屋内にテーブルをいただいたMICの売り場には、予想以上にたくさんのお客様に
お越しいただき、皆様から提供していただいた品々や手芸部の手作り品をお買い上げいただきました。売り子も
8人という充実ぶり、お客様との間に楽しい会話が生まれました。

売上げから経費と教会への寄付を引いた33,800円をMICかながわに寄付いたしました。皆様のご協力に
かんしゃもう あ
感謝申し上げます。ありがとうございました。

また、12月10日には同教会で「クリスマス・ミニバザー」が開催され、10月のバザー同様に出品参加さ
せていただきました。穏やかなお天気に恵まれ、お客様もゆっくり買い物できたようでした。このバザーから
はんばいひん そ しょうかい ようい こうほうかつどう いっそうつと ことし
販売品に添えるMIC紹介ミニカードを用意し、広報活動に一層努めました。また今年はいくつかのHappy
Holidays!の他にPeace on Earthというミニメッセージカードも用意しました。売上げの12,750円はMICか
ながわに寄付いたします。



いっしょ しゅげい たの がた しゅげいぶ さんか ま てづく ひん
一緒に手芸を楽しみたい方の手芸部への参加をお待ちしています。手作りの
なか につく かりた し こえ で こんご しゅげい
中には、作り方を知りたいという声が出ているものもあり、今後、「手芸カフェ」
なか しょうかい けんとう
の中で紹介することを検討しています。

それでは、どうぞお元気で良いお年をお迎えください。そして、「手芸カフェ」
やバザーでお会いできますようにと願っております。

2023年12月
しゅげいぶいちどう
手芸部一同



ことばで支える ささ いのちとくらし

MIC かながわは認定特定非営利活動法人
(認定NPO法人)です。

寄付は所得税の寄付金控除、または税額
控除、いずれか有利な方の適用を受けること
ができます。また、神奈川県にお住まいの方
は個人県民税の寄付金控除の適用も受ける
ことができます。

MIC かながわの活動はみなさまの会費と
寄付で支えられています。会員はいつでも
募集しています。ぜひ会員になって私たち
の活動を応援してください。

へんしゅうこうき 編集後記

◆100号発行おめでとうございます！ 7年もMICちゃん
をやっていたことに驚きが隠せません。当時学童に行っ
ていた子どももそれぞれ高校生&中学生……。いつも
ダイエットしようとしているところだけは変わらない
ままです。(K.M)

◆電車などで抱っこされた赤ちゃんにじっと見つめられ
ることがある。その汚れのない瞳のパワーに、いつも身
がすくむ。

誰もがはじめは赤ん坊だった。真っ白で純真無垢だっ
たはず。どんな親も、抱っこしている我が子が将来人を
殺めたり、騙したりする大人になろうとは露ほども、思っ
てはいない。今、世界で起きていることはとても悲しい。
バタフライ効果でも、百匹目の猿でもなんでも良いが、
こうしてコツコツと百号まで繋いできたように、ひとり
ひとりが小さな良きことを積み上げて、いつかは必ずく
る美しい世界を期待したい。(R.M)

◆神田明神の大掃除でロボット掃除機が大活躍だった
そうです。人が払った天井からの埃をロボット掃除機
が床を縦横無尽に動き回りがき集め、とても大きな助け
になったとか。通訳、翻訳の世界でも分野によっては翻訳
アプリがコミュニケーションの不自由さをカバーしてく
れています。世の中は上手に文明の利器を受け入れてい
くものなのですね。(M.N)

2023年度の会費をお願いします。
会費は4月から翌年3月までの年度会費です。

●新規会員・継続会員の方

正会員：6,000円

個人賛助会員：1口 3,000円

団体賛助会員：1口 10,000円

(賛助会費は寄付扱いとなります)

【会費振込先】

みずほ銀行 横浜駅前支店

普通3819349

口座名義：トクヒ) タゲンゴシャカイリソースカナガワ

横浜銀行 横浜駅前支店

普通3417718

口座名義：トクヒ) タゲンゴシャカイリソースカナガワ

郵便振替

口座：00270-2-55771

口座名称：MIC かながわ



みっく
MICかながわ

特定非営利活動法人
多言語社会リソースかながわ
発行人 松野勝民

編集・発行 MIC かながわ事務局

〒221-0835

横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2

かながわ県民センター内

Tel: 045-314-3368

Fax: 045-342-7918

e-mail: mickanagawa@network.email.ne.jp

URL: http://mickanagawa.web.fc2.com/